

4. 救急時医療情報閲覧機能活用のメリット (1/2)

救急時医療情報閲覧機能によって、**患者の服用薬等の複数回にわたる口頭伝達が軽減可能**です。さらに、電子カルテへの入力作業が効率化され、**業務負荷軽減および医療の質向上**につながります。

これまで

救急時医療情報閲覧機能の導入前



1年前に●●で手術した。
たくさん薬を服用している。
おそらく今服用している薬はXXとXXのはず

患者家族等は救急隊員に
患者の過去の病歴・服用薬等を伝える



1年前に●●で手術歴ありだが、
副反応を引き起こす可能性のある◇◇の
服用はなさそう。
付き添い者からXXとXXの薬を
服用中と聞いている

救急隊員は医師へ、かかりつけ医や
既往歴、服用薬等を伝える

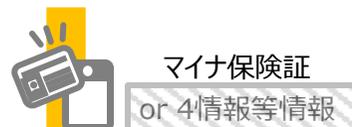


本当に服用してる薬の情報は正しい？
◇◇の服用はないかもしれないが、
▲▲の服用も再度確認が必要。
薬の量が多くて電子カルテへ
の打ち込みが大変。

医師は、聞き取った内容を電子カルテに打ち込む

これから

救急時医療情報閲覧機能の導入後



マイナ保険証
or 4情報等情報



オンライン資格確認等システムから取得した情報を
電子カルテにそのまま入力可能



患者情報の聞き取り、
電子カルテへの打ち込み
時間が短縮した



正確な患者情報を迅速に
取得できるようになった

患者さんと向き合える
時間が増加した

4. 救急時医療情報閲覧機能活用のメリット（2/2）

救急時医療情報閲覧機能では患者の直近の受診歴も確認可能なことから、転院搬送やかかりつけ医と連携を取る場合等に、双方の医療機関にとってより迅速な意思決定・情報伝達が可能と考えられます。

①-メリット

手術する際に、かかりつけ医から
〇〇の情報を入手したい。
救急時医療情報の受診歴を見て
かかりつけ医に連絡しよう！



救急医療機関

XXさんのカルテありました！
〇〇の情報もあります！



かかりつけの医療機関

かかりつけ医となる病院候補が複数ある
都市部においても、かかりつけ医と素早く
連携を図ることができると考えられます

②-メリット



患者家族

通っている病院が
たくさんあるんです、、、

かかりつけの名前が
思い出せません…

ご家族は、患者ご本人の通院先
をよく把握していなさそう。
受診歴を見て、かかりつけ医を
特定しよう！



医師等

患者本人と意思疎通が難しい場合でも、
受診歴からかかりつけ医を特定し、転院搬
送先をより素早く検討可能と考えられます

③-メリット



転院搬送元
医療機関

救急時医療情報を参照する
ことで紹介状の作成が素早
くできるようになった！

救急時医療情報から薬剤等の情報
をそのまま転記いただいているため、
より正確な情報を含む紹介状を得ら
れる機会が増えた！



転院搬送を受け入れる
医療機関

転院搬送元・搬送先双方の医療機関にと
って、患者情報伝達にかかる時間を軽減・
より正確な情報伝達が可能と考えられます